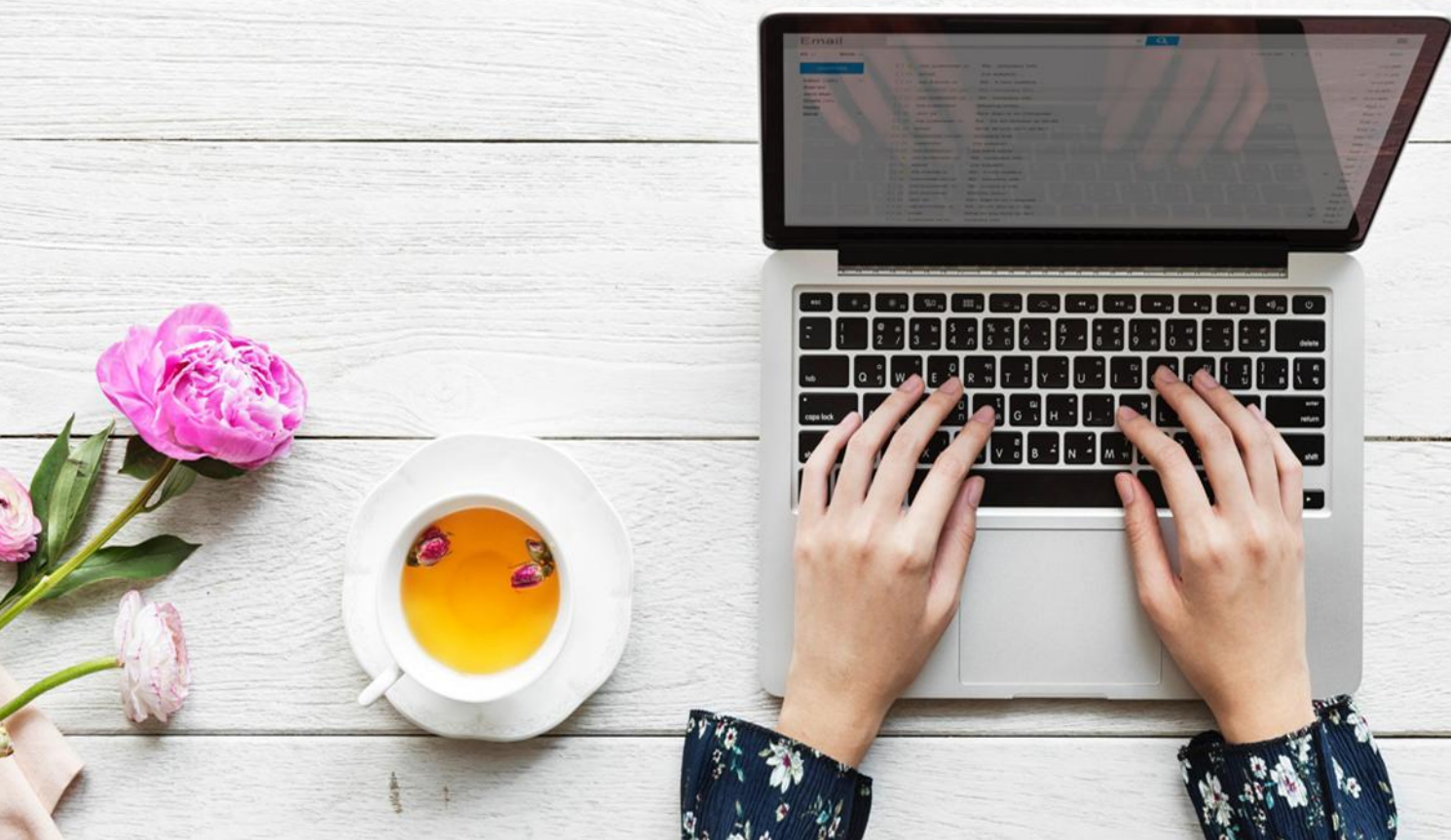


写真プリントの基本

プリンタの設定とディスプレイの調整



写真プリントの基本

まず用紙は基本としてはメーカーごとに初期設定された基準となる用紙があります。

キヤノンならば、写真用紙 光沢ゴールド

エプソンなら 写真用紙クリスピー がメーカーとしての葉職長西洋史と考えてください。

プリンタメーカー以外の用紙の場合は、用紙の取り扱い説明書などに、プリンタメーカーごとに用紙設定の説明が書かれています。それに合わせる事がまず基本です。

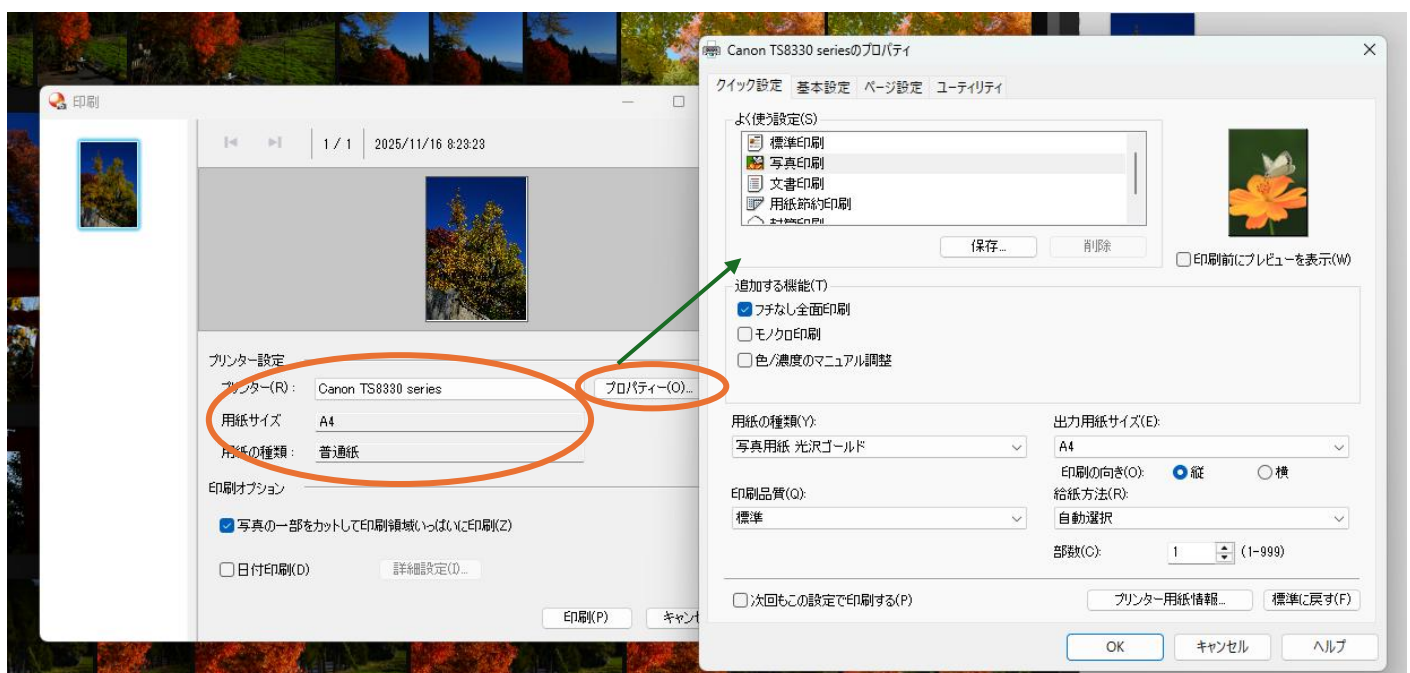
キヤノンプリンタで印刷する場合の例

プログラムメニューなどから印刷をクリックすると、左のようにプリンタを選択するプルダウンメニューなどが表示されます。

印刷に使うプリンタを選択し、その横のプロパティをクリックします

すると、右側のプリンタのプロパティ画面が表示されます。

このプリンタの場合は、よく使う設定から写真を選択し、用紙の種類で、使用する用紙を選択します。また、縁なし印刷をするのかもここで設定できます。



印刷品質も設定できます、文書などであれば標準、写真であれば綺麗を選択します。

次に、基本設定のタブをクリックすると、用紙の種類に合わせた調整項目が表示され設定することが出来ます。

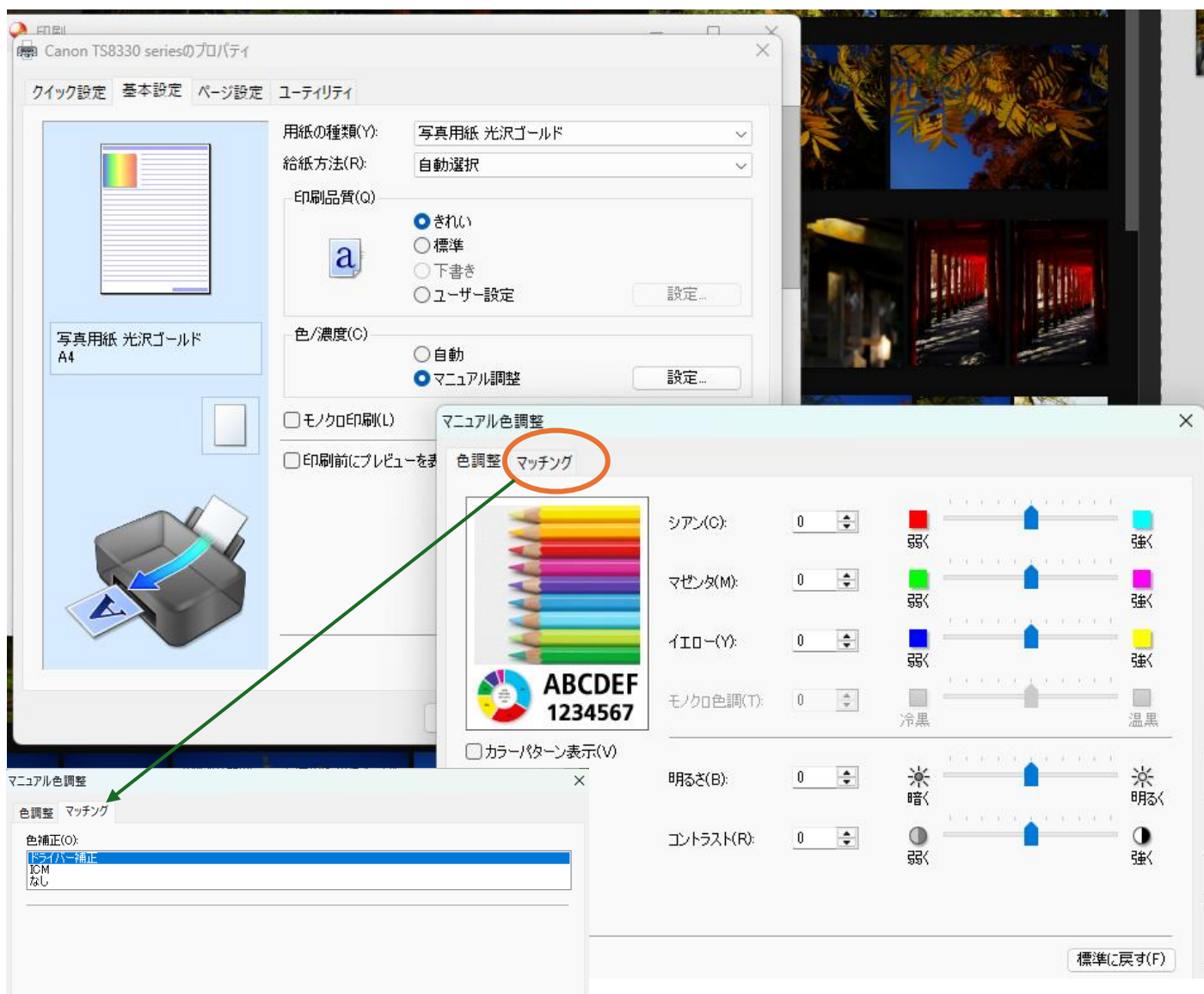
特に、色・濃度を自動で行うのが基本で設定されています、通常こだわらない印刷は自動で良いと思います。

色にシビアにこだわる場合などの時は、マニュアル設定を選択し設定をクリックして、事前に印刷したプリント結果を見ながら自分で調整します。

プリンタに仕事をさせるといのは、自動にするとプリンタがドライバーで補正します。

通常は自動で印刷します。ただ思った色にならない場合は、色調整を使って調整します。

このとき、画面の表示が適正なのかがポイントになります。



画面表示は、モニター個々で違ってきます

画面の色合いなどを調整することをキャリブレーションといいます。

ノートパソコンの中には自動で調整するものもありますが、一部の機種に限られています。

これについては別途解説します。

画面に替えて発色を調整するには、写真屋さんでプリントを注文して見て比べることです。

例えばカメラのキタムラの各店は、定期的にメンテナンスと色調整が行われています。

ただし店舗間での差も無いことは無いですので、1店舗だけで無く出来れば複数店舗でプリントを注文しておきます。その際、店頭受付機で、通常は自動調整されたプリントが行われます。

色合いなどを調整することも出来ますので、スタッフに声をかけて、同じ写真を無補正のものも注文してみましょう。それらを見比べて、自分のプリンタでプリントしたもの、また、画面に表示されている写真を比較して、どれが自分の求めている色や明るさなのかを把握しましょう。

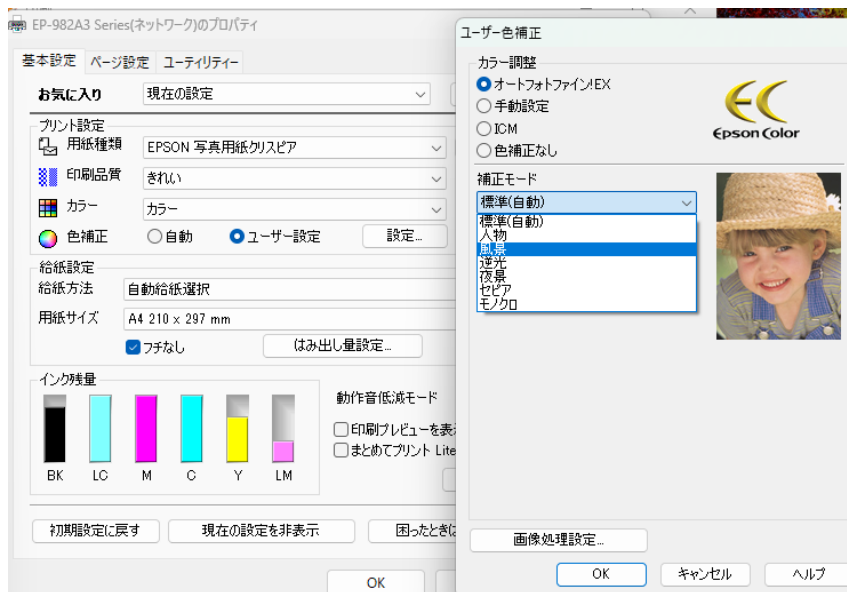
それを元に、上記の色調整を行うと意外とスムーズに自分の求めた板写真がプリントされると思います。

エプソンのプリンタで印刷する場合の例

キャノンの場合と同じように印刷に使用するプリンタを選択して、その横にあるプロパティをクリックすると下記のメニューが表示されます



エプソンの場合は、基本設定で、用紙の種類、印刷品質、色補正を設定できます。



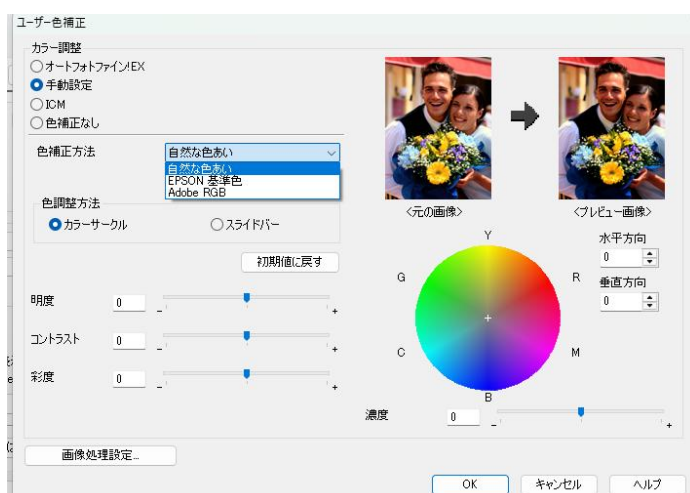
色補正メニュー

カラー調整のオートファインはプリンタドライバで調整された色となります。オートファインでも、補正モードを選択することにより、写真の内容に沿って補正を選択できます。

手動調整はキャノンの場合と同じような感じで微調整が行えます。

この場合も色補正については選択することが出来ます。

色補正なしは、プリンタドライバは全く何も補正を行いません。



プリンタメーカー以外の用紙で印刷する場合

例えば、これはプリンタメーカー以外の光沢ハガキの箱の裏面の説明書です。

光沢ハガキ

- 写真印刷に最適な光沢ハガキです。
- 郵便枠つきの用紙なので、年賀状や暑中見舞い、各種案内に最適です。
- 印刷後の光沢低下が少なく、高白色が美しい用紙です。
- 試し刷りに便利なテストプリント用紙2枚付きです。

5F20

おすすめ用紙設定

光沢面	メーカー	用紙設定	印刷モード
光沢面	EPSON	EPSON写真用紙	きれい
	Canon	光沢紙	きれい
	hp	プレミアムフォト用紙	高画質
宛名面			
メーカー	用紙設定	印刷モード	
EPSON	普通紙	推奨設定	
Canon	普通紙	きれい	
hp	普通紙	きれい	

対応インク

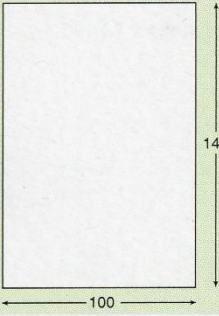
顔料
対応

染料
対応

● 光沢面は顔料インクでは印刷できませんので、ご注意ください。

150枚入

紙厚 0.22mm
坪量 180g/m²



はがきですから、文面と宛名面があります。

この用紙の場合、文面の光沢面は、顔料インクに対応していないため綺麗に印刷できないようです。

また、使うときは用紙設定と印刷モードを書かれているように設定することでこの用紙本来の色で印刷されます。

ここでインクが染料インクなのか顔料インクなのか？意外と知らないと思います。

私の使用しているプリンタでは、キャノン TS8330 では、染料インク

380 と顔料インク 381 の 2 種類があります。染料インクはおもに写真やイラストなどの印刷に使われ、顔料インクは文字などの印刷に使われます。ということですので、光沢面の印刷に対応しています。また宛名面も問題なく使用できます。

エプソン EP-982A3 は、エプソンの 80 インクで、主に染料インクを使用しており、特に IC6CL80 型番のインクが販売されています。このインクは、光沢のある用紙に印刷する際に、色再現性や保存性に優れています。また、エプソンのプリンターは染料インク専用の設計となっており、顔料インクとは互換性がありません。ので、問題なく使用できます。

純正のプリンタメーカーの用紙は、こういった条件を踏まえて作られています。他社メーカーの場合は説明書を確認して使用する必要があります。

フィルム写真と違ってデジタルカメラの場合、撮影して確認して自分で加工などを行って出力するまでがカメラマンの仕事になります。よりよい作品を作るためには、使用しているプリンタやモニタの特性を知り、用紙を選択して印刷することが大事となります。

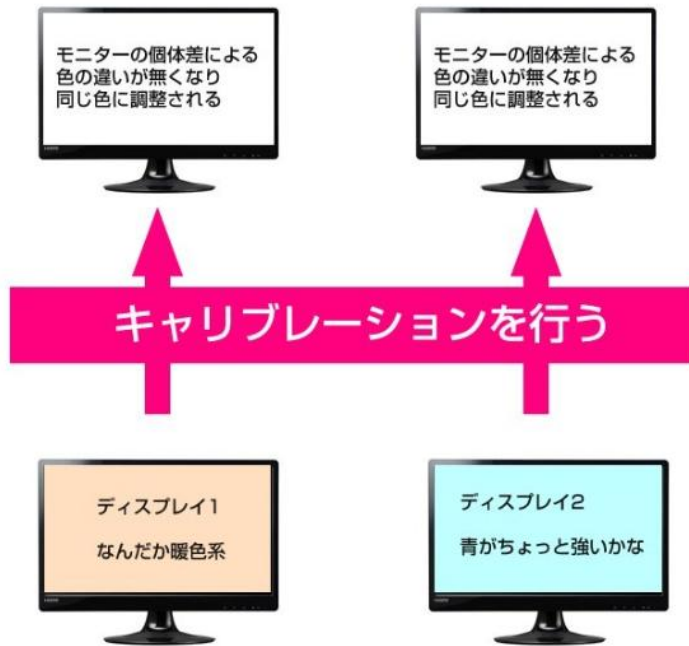
SNS で写真を見るとき、モニターによって色が違うことを知ってその分を差し引いて評価しないといけません。構図は評価できても色は難しいのです。

モニターの調整キャリブレーションについて

モニターには個体差があってそれぞれ色味が異なります。

パソコンのモニターは、個体差があって、全く同じ新品モニターだとしても色に多少の差異があります。これがメーカーや型番の違うモニターであれば色のバラつき(色ズレ)は結構すごいです。

例えば、2画面モニター運用の場合、左と右で同じウェブページを開いているのに、左右モニターで色味が異なるウェブページが表示されるという不具合が発生するわけです。



それを回避するために、モニターの色を調整するカラーマネジメント「キャリブレーション」を行って複数モニター同士の色を揃える必要があるのです。

上図のようにキャリブレーションを行うことで、2画面であれば左右のモニター同士のカラーバランスが同じになって、色に違和感のない正確な作業ができるようになります。

パソコンを複数モニターで運用する場合…特にクリエイティブな作業には「キャリブレーション」をしっかり行っておくことが重要です。

キャリブレーションとは

キャリブレーションを日本語にすると「校正 (こうせい)」です。

校正とは「正しく調整する」ことで「モニターキャリブレーション」＝「モニター表示を正確に調整する」という意味合いになるのでしょうか。

そして、以下で紹介する“簡単に正確なキャリブレーションを行ってくれる道具”を「キャリブレーションツール」と言います。

無料の web ツールで調整しましょう

EIZO Monitor Test：総合的な画質チェックの“決定版”

高性能モニターで有名な EIZO が提供している Web ツール。画面の均一性、色のグラデーション、ガンマ、応答速度など、モニターの基本性能を総合的にチェックできる。特に、グラデーションのパターンで、色の階調が滑らかに表示されているか（縞模様になっていないか）は、ぜひ確認したいポイントです。

EIZO Monitor Test <https://www.eizo.be/monitor-test/>

モニターの色を簡単に揃えられるキャリブレーションツール

専用のソフトウェアをインストールして、このようにツールをモニターの所定の場所に合わせます。色やコントラストが適切になるように自動で調整してくれます。

これは機械的に調整されるので主観がありません。きちんと調整するならこれらの機械的なツール

が必要です。ただ、安いものでは無いだけに、どうして複数のモニターで写真の調整するなら購入するのが良いでしょう。

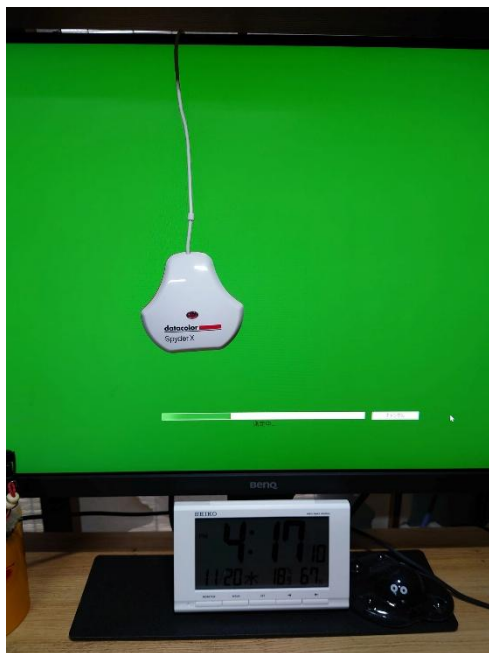
このようにモニターの前にセンサーを垂らして、専用のツールを使って調整します。

いくつかの発色テストがモニターに表示され、それをツールが読み取って色味を調整していきます。

安価なモニターでも、キャリブレーションを行うとそこそこ美しい色合いになってくれるので本当に重宝します。

キャリブレーションツールは、ひとつ持っておけば他の複数台のパソコンでも使用できるので大変便利なのです。

発色がいまいちで安価な Windows ノートパソコンに対してキャリブレーションツールを使うと、そこそこまともな色味になってくれるので驚きます。



【国内正規品】Datacolor SpyderX Pro
ディスプレイキャリブレーションツール
SXP100
Datacolorのストアを表示
3.9 ★★★★★ (166)
過去1か月で50品以上購入されました



¥24,749 税込
または¥4,125/月(6か月) 3つのプランから選択
prime 2日
741ポイント (3%) 内訳
エントリー スタンプを4つ集めて、50,000ポイント出庫のチャンスもある抽選に参加。 キャンペーン期間中
お仕事用のショッピングですか? Amazonビジネスのご注文で、最大¥9,000までの30%割引が適用されます。 無料のビジネスアカウントにご登録ください
Amazon Mastercardで獲得したポイントや会員限定の特典を今すぐ確認

高価なものですので、まずは、上記の web サイトから行える調整を行ってみましょう。

実際に使う手順として、まずディスプレイ自体のボタン操作でそれまでの設定をリセットします。また自動調整などが行われている場合は、停止します。その上で、キャリブレーションツールのアプリの説明に従って基準となる光度やコントラストを調整します。ここが手動なのですがこれが調整の基準と

なるので、大切なところ。後はツールの説明に従って約5分で調整され、プロファイルとして保存されます。このプロファイルはディスプレイの名前をつけて保存することが出来、PC を起動すると呼び出されて調整されます。